

令和2年度

施策評価表(令和元年度の実績評価)

記入年月日

令和 2 年 6 月 1 日

施策No.	政策名	活力ある産業のまちづくり	主管課	商工観光課	主管課長名	増淵 孝明
4-3	施策名	観光の振興	関係課	農林課、生涯学習課、都市整備課、企画課、ヤマザクラ課		

1. 施策の目的と成果把握

目的	施策の対象	対象指標名	単位	区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度
		桜川市に訪れる観光客	①1都、6県の人口	千人	見込値	43,285	43,385	43,485	43,585
実績値	43,285				43,385	43,464			
見込値									
実績値									
目的	施策の意図	成果指標名	単位	区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度
	交流人口増によりにぎわいが生まれ、経済が活性化している。	①観光客入り込み客数	人	目標値	350,000	360,000	370,000	385,000	400,000
実績値				304,000	336,254	352,380			
②イベント来場者数		人	目標値	50,000	55,000	60,000	65,000	70,000	
			実績値	45,000	50,000	55,000			
③お土産品開発数(5カ年累計)		件	目標値	2	2	2	2	2	
			実績値	2	5	2			
④観光協会会員数		人	目標値	160	170	180	190	200	
			実績値	154	183	186			
		目標値							
		実績値							
成果指標設定の考え方	①観光客の動向 ②交流人口による地域のにぎわい ③経済への貢献度 ④観光に関心を持つ人材の発掘・育成								
成果指標の把握方法と算定式等	①茨城県観光客動態調査による数値(真壁のひなまつり、桜祭り、真壁祇園祭、みかん狩りを含む)とキャンプ場2カ所の利用者数 ②SAKURAフェスティバル、納涼大会、地域・市民主体によるイベント等の来場者数(岩瀬駅前夏祭り、かっただて祭り、十三夜祭、まかべ日和、秋さんぽ等) ③経済活動を意識した観光客向けお土産品の開発件数 ④観光協会の会員数								

2. 施策の成果水準とその背景・要因

1) 現状の成果水準と時系列比較(現状の水準は以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は?)

実績比較	<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した	<input checked="" type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば向上した	<input type="checkbox"/> 成果がほとんど変わらない(横ばい状態)
	<input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば低下した	<input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した	
背景・要因	①観光客入り込み客数は、前年度336,254人に対し令和元年度は352,830人で16,576人上回った。 ②イベント来場者は、前年度50,000人に対し令和元年度は55,000人で5,000人上回った。 ③お土産品開発件数は、前年度5件に対し令和元年度は2件で3件下回った。 ④観光協会会員数は、前年度183人に対し令和元年度は186人で3人上回った。		

2) 成果目標の達成状況

実績比較	<input type="checkbox"/> 目標値のすべてを上回った	<input type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を上回った	<input type="checkbox"/> 目標値どおりの成果であった
	<input checked="" type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を下回った	<input type="checkbox"/> 目標値のすべてを下回った	
背景・要因	①観光客入り込み客数は目標値370,000人に対し実績値352,830人と目標値を下回った。 ②イベント来場者は目標値60,000人に対し実績値55,000人と目標値を下回った。 ③お土産品開発件数は目標値2件に対し実績値2件であり、目標値どおりとなった。 ④観光協会会員数は目標値180人に対し実績値186人であり、目標値を上回った。		

3. 施策の成果実績に対するの総括と今後の課題・方針

施策の成果実績に対するの総括	今後の課題・方針
令和元年度に貢献した事業は「りんりんロード利活用促進事業」「観光協会運営支援事業」であった。 「りんりんロード利活用促進事業」は霞ヶ浦りんりんロード利活用推進協議会のレンタサイクル事業として、レンタサイクルシステムを活用し桜川市の環境PRやサイクリストの桜川市に対する魅力向上に繋がられた。 「観光協会運営支援事業」は入会する会員が増加し、新たな人材の発掘や観光まちづくりの推進の一助となった。	単なる観光客の増加を狙うのではなく、域内消費を意識した滞在型観光(体験ツアーやお土産品の開発など)への取り組みが必要である。 市民が主体となる観光まちづくりを進め、市民の観光への関心を高めたい必要がある。 りんりんロードを利用している方に対し、新たな観光客の誘致を図るため、高峰の山桜・雨引観音・筑波山ハイキング等のPRを推進し、市の知名度アップにもつなげる。